

阿波踊り 三好病院連

復活!

23年ぶりに踊り込みました!



今号の
内容

(特集) 阿波踊り
三好病院連復活!

●三好市探訪 ～敷之上橋～

阿波踊り 三好病院連復活!

2017阿波踊り「三好病院連」 復活! (放射線技術科 副連長 松崎 伸)



あれは確か2年ほど前、住友院長が職員を前に、「三好病院で阿波踊りをやりましょう!やります!」と宣言したような記憶がある。どうなるのかな?とは思っていたものの、それから1年が過ぎ、昨年の春、いや、春も終わろうとしていた頃だっただろうが、突然、院長から「お願いが・・・!」と、「んっ?何か嫌な予感が・・・」「何かわからないけど嫌です!・・・(笑)」といった様な会話から三好病院連の復活劇がはじまった。「ぜひやりましょう!」と院長の熱い思いが延々……。思いは消えていなかったんだと確信したが、今からでは夏の復活は無理だと考え、まず、病院大忘年会の出し物でやることに!そして踊りの気運を高めてから来夏の復活を目指してやっというところになった。しかし20数年間倉庫に眠っているはずの鳴り物、浴衣などは無事なのか?使えるのか?不安を抱きながらそれらの確認から始まり、まずは何とか大忘年会に照準を合わせ、放射線技術科有志主体の鳴り物練習が始まった。

密かなる、鳴り物練習の日々～大忘年会に向けて～

病院の地下、免震構造の柱の間で練習を始めたが、構造的に病院と地上の間には隙間があるため外に音もれた。11月下旬、定期的に院外にぞめきの音もれるのはまずい(この時期には騒音かも?)とのことで次に、厚い壁に囲まれている部屋でやってみたが、院内に音もれた。そこでさらに奥まった“ある”場所ではどうだろうとなり、秘密の狭い部屋でこじんまりと鳴り物の練習をしたのが思い出に残る。



何とか大忘年会でも会場一体となり盛り上がったことで、復活のきっかけとなった!



準備開始 ～ヒトは?モノは?～

年も明け、いよいよ夏に向かってまずは物品の再確認から始めた。年数が年数だけに、埃をかぶった古い箱や袋から引っ張り出して数を確認し、使える物と無理な物を仕分けした。何回も確認して、クリーニングに出したり、調整したり・・・と、そしてそれらの数が足りるのかどうか?ということと、連員が集まるのか?が最後まで心配だった。高張提灯の修理、鳴り物の修理、調整、財源が無いなかでの必要物品の買い出し等、本当に皆の協力なくしては出来なかった。

本格練習! ～本番までの12日間～

そしていよいよ本番に向かって外での練習が7月末から始まった。私もだんだんと阿波踊り好きの血が騒いできたが、まだ手探り状態の毎日が続いた。多くの職員が交代制勤務であり、また会議、残業等で忙しい中、ほんの数名で練習する日もあったが、なんとなく型になっていった。数多い阿波踊り連の中では仕事柄、いちばん練習に集まりにくい連であろうと思われる?!その中で実質12日間の練習であったが、なんとか型になったのは皆の情熱と頑張りがあったからだろう。



平成29年度夏！阿波踊り～いよいよ本番！～

三好病院連の全容は本番当日までわからないまま、ついに平成29年8月16日の「復活の日」をむかえ、看板娘のちびっこ1名を含めた34名が集まった！全員が踊り衣装で集合した時は本当にうれしく感動した。そして病院駐車場でひと踊りし、街の踊り会場に踊り込んだ時は、最高の熱気に包まれ皆で思いっきり盛り上がり楽しめた。踊り子、鳴り物参加の方々をはじめ、会場まで荷物運搬をしてくださり、そしてクーラーボックスを台車に乗せてずっと踊りについてきてくれたサポート隊の方々（おそらくこんなサポートをしてくれる連はないだろう！）、写真を撮ってくれた方々、着付けをくださった方々、協力してくださったすべての方々に感謝する。職種を越えて協力し合い、チームワークで手作りの本当に素晴らしい連が復活できたと思う。三好病院連が病院の活性化と、地域の方々に「三好病院も頑張っているよ」というところを見て頂き、少しでも地域の活性化に



もつながればと願った夏であった。

今年は踏み出せなかった人、参加したいのに出来なかった人もいたと思う。「踊る阿呆に見る阿呆～、同じ阿呆なら踊らにゃそんそん～！」と言う事で、来夏はぜひもっと多くの方々が参加して、楽しくもっともっと盛り上げていこう！



三好の踊りはやみつきになりそうだ！

(県立中央病院 吉岡敏和)

8月12日に徳島市内で中央病院連としてひと踊りした私たちは、三好病院連が23年ぶりに復活すると聞き、三好病院連と一緒に踊り込むために16日に池田入りました。仕事で見かける人が何人かいてすぐに溶け込



めましたが、鳴り物あわせはこの日が初めてで、街に繰り出すまでは不安がいっぱいでしたが、いざ踊り出すと今夜が初めてと思えない息の合った“ぞめき”ができあがりました。

県立病院には、中央・三好の他に、海部病院の「はまゆう連」があります。来年は県立3病院の連が共に集い、真夏の夜に「県立病院連ここにあり」と気勢を上げたいと感じました。

一緒に踊った三好病院のみなさんお疲れ様でした。あたたかい声援を送って頂いた県西部のみなさん、ありがとうございました。

ずっと待っていた、鳴り物たち

(事務局 谷口光春)

入庁した年から10年間お付き合い頂いた鳴り物たち。当時の三好病院連は若人を筆頭に老若男女問わず活気に溢れていた。本番当日は玄関前で、鳴り物が奏でるぞめきに合わせひと踊り。患者さんをはじめ近隣の人たちが観衆となり手拍子で踊りを後押し、大いに賑わった。ちびっこ踊りも多数いて親御さんたちのフラッシュが咲き乱れていた。鳴り物も仲間を増やし竹・樽と大所帯になっていった。そんな鳴り物たちも連の活動休止に伴い倉庫で眠ることとなった。もう、このままあの檜舞台には戻れないと諦めかけていたころ、住友先生が病院長に着任。昔、連を引っ張ってくれていた松崎副連長も異動で戻って来るなどの条件が重なり23年ぶりに日の目を見ることとなった。朽ちた部分は張り替えなどのお色直しを施し、紐はこ



の際新調した。23年間眠っていたとは思えない見栄えに内心わくわくした。打ち手は懐かしい顔から、初めてお目にかかる若い衆までいて、少し緊張した。当院の職員に頼んで高張り提灯にライトアップできる仕掛けを施してもらった。夜の帳にほのかに光る提灯には品があった。街を1周半しかできなかったが池田の阿波踊りの空気は格別だった。黒子の人たちも付いてきてくれて助かった。来年も再来年も、この空気を吸い続けたい。鳴り物たちもきっとそう思っていると感じた阿波踊りだった。



ご声援、ありがとうございました!
 来夏も、三好病院連は踊り込んでまいります。

三好市探訪

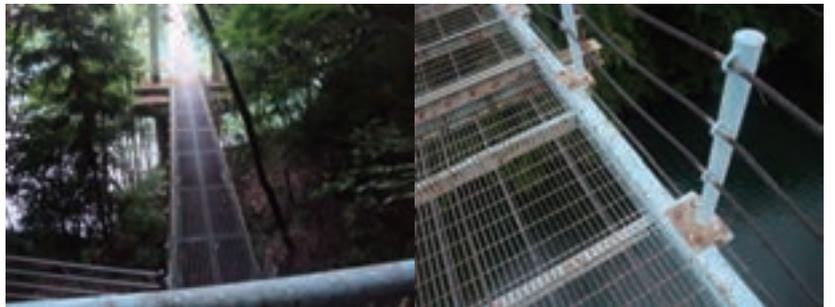
～敷之上橋～



吊り橋と言えば祖谷のかずら橋が有名ですが、この池田町にもかずら橋に負けずと劣らない珍しいつり橋があると聞き、行ってきました。少し分かりにくい場所にあるのですが、ウエノ地区と対岸の白地地区を結ぶ鉄製の吊り橋です。お天気がよければ、ダム湖周辺の眺めは最高ですが、下を見ると・・・。

これから紅葉の季節にかけて絶好のポイントだと思いますので、お出かけの参考にしてください。

池田ダム湖上(ダムから約1.3km上流)に架かるスレンダーな歩道吊り橋。
 昭和49年完成、橋長195m、塔の高さ18.35m、幅員1.7m
 鉄製ですが揺れます!



～**県立三好病院基本理念**～
 『誠実』で『信頼』される病院となる

〒778-8503 徳島県三好市池田町シマ815-2
 TEL 0883-72-1131 FAX 0883-72-6910
 発行 徳島県立三好病院 広報委員会

臨時看護師募集

随時募集しています。詳しくは当院ホームページをご覧ください。
<http://www.miyoshi-hosp.jp>

ご意見・ご要望がございましたら、ホームページ、または院内で意見箱までお願いします。
 広報バックナンバーは、ホームページ <http://www.miyoshi-hosp.jp> にてご覧になれます。